

防火クラブ紹介



向谷防火クラブ
(飯南町赤来地区)
会長 森口 安信

私たち向谷防火クラブは、赤名連たん地に接した、戸数20戸余り約60名の農業主体の自治会です。

当防火クラブは、以前は向谷婦人防火クラブとして婦人会の皆様が主体となって活動を行っていましたが、婦人会が解散したのをきっかけに、防火クラブ解散の声が起こりました。話し合いの結果、「日頃の付き合いも疎遠になりがちで、互いのコミュニケーションや防火・防災意識を絶やさない為に継続が必要では」との思いから、自治会防火クラブとして活動を受け継ぎ、現在に至っています。

平成15年には自治会館を新築し、年に数回だった常会も毎月1回の開催に増やし、地区内の皆さんとコミュニケーションを図ると共に、火災・農作業事故・交通事故等の各種災害の防止について話し合っています。

残念な事に平成18年3月には当自治会内で住宅火災が発生しました。このときに体験した住宅火災の恐ろしさを忘れることなく、二度と火災を起こさない為に、一人一人が十分

気をつけて行動するように呼びかけています。

防火クラブの活動としては、防火・防災座談会を開催したり、毎年春秋の火災予防運動期間中にはポスター、チラシの配付を行っています。また、平成19年度に参加した飯南町主催の防災避難訓練では、互いの協力の大切さを実感しました。

お陰様で当防火クラブは平成21年度優良防火クラブ会長表彰を受賞しました。これを機に消火訓練、火災警報器の早期設置、災害を減らす減災に対する話し合いなどに力を入れ、防火・防災・減災意識をより一層高めて参りたいと思います。



火災予防ポスターコンクール募集

①募集要項

火災予防に関して普及啓発が図れるもので、本人が撮影、作成したオリジナル作品とし、一人、一点の応募とする。

②応募作品

- 大きさは、日本工業規格A3以内とし、縦長とする。
- 写真、イラスト、コンピュータグラフィックス、図画など、ポスターの種類は問わない。
- 作品の裏に住所、氏名、電話番号、撮影年月日、撮影場所、被写体の人物名などを明記する。
- 今年度全国統一防火標語「消えるまで ゆっくり火の元 にらめっ子」を入れることを考慮する。

③募集期間

平成21年9月1日(火)から9月30日(水)まで (郵送可)

④応募先

雲南消防本部 予防課(〒699-1311 雲南市木次町里方1100-6)

その他

最優秀作品一点は、平成21年秋季火災予防広報用ポスターとして管内各戸、各事業所に配布し、火災予防広報活動に使用します。ご不明な点がございましたら、予防課 までお問い合わせ下さい。 TEL(0854)40-0139



平成20年最優秀作品

雲南消防本部

消防職員採用試験のお知らせ

平成22年4月1日採用予定の消防職員を募集いたします。

【採用予定人員】 一般消防職員 7名程度

【受付期間】 平成21年7月27日(月)～平成21年8月18日(火)

- 【受験資格等】
- 学歴・性別は問いません(高等学校卒業程度の学力必要)
 - 昭和59年4月2日から平成4年4月1日までに生まれた者
 - 採用後は雲南市、奥出雲町又は飯南町に居住できる者

受験申込書の請求や受験手続きなど詳しいことについては、
雲南消防本部総務課(TEL0854-40-0129)にお尋ねください。

詳細は
雲南消防
ホームページに
掲載中!

「防火クラブ・自主防災組織会長会議」・「防火・防災講演会」開催

雲南防火委員会では、5月24日(日)防火クラブ・自主防災組織会長会議を開催しました。

また、兵庫県神戸市長田小学校区防災福祉コミュニティを立ち上げられ、長らく会長を務められた川福克己氏を講師にお招きし、「ライフライン」と題し防火・防災講演会を開催しました。

平成7年の阪神淡路大震災を被災された川福氏は、「忘れたくても忘れられない、いや、決して忘れてはならない。」と、当時の体験や経験を話されました。

住民が自ら判断し互いに助け合って行動する「自助・共助」の精神に基づいた、各地域の防災体制強化が重要であることを、わかりやすくご講演いただきました。

この講演会を契機に、当本部管内の防火クラブの皆様にも更に積極的な活動を展開していただき、防災体制強化を図っていただければ幸いです。

阪神淡路大震災の経験
などについて話す川福氏



雲南市掛合町多根志食自治会 火災想定総合訓練



雲南市掛合町多根志食自治会では、一般住宅の火災を想定した総合訓練を実施されました。

訓練火災発生の場合、通報訓練、初期消火訓練、避難誘導訓練、救出訓練、炊き出し訓練を一連の流れの中で実施されました。

参加者は「やってみて初めて気づく注意点が多々あり、とても有意義な訓練だったと思う。まずは火災を出さない事が一番だが、有事の際には今回の訓練の経験を生かしたい。」と話されました。



バケツリレーによる初期消火



毛布を用いた救出訓練



水消火器を用いた消火訓練